

テニスクリニックでプロの技学ぶ

7月21日、22日に
ダンロップ スリクソン
DUNLOP・SRIXON

宮崎県テニスクリ
ニックが総合運動公
園テニスコートで開

催されました。久見香奈恵プロを迎え、市内の小中学生ら約150人が参加。参加者は交流を深めながらプロの技を学びました。



東麓六月灯まつりが災害義援金贈呈

7月26日、東麓六
月灯まつり実行委員
会が日本赤十字社に
義援金を贈呈しまし

た。同21日に開催されたまつりで西日本豪雨災害被災者への義援金を募集。大畑孝壹委員長は「野尻町民の温かい心と気持ちを届けてください」と話していました。



特別支援教育への理解深める

7月27日、第21
回宮崎県特別支援教
育研究連合研究大会
が文化会館で開催さ
れました。県内の小・

中学校や特別支援学校の教諭ら約400人が参加。研究発表や講演会などを通して、特別支援教育への理解を深めました。



人権を考えるアニメ映画を放映

7月29日、夏休み
ふれあい映画祭を文
化会館で開催しまし
た。人権の大切さを
考えてもらうことが

目的で、小学生向けのアニメーション映画2本を放映。親子連れなど約300人が来場し、人権についての理解を深めました。



五輪メダリスト高平さん指導 小中高生対象の陸上教室開催

7月26日、北京オリンピック4×100リレー銅メダリストの高平慎士さんが講師を務める陸上教室が開催されました。西諸地域の小中高生約300人が参加。練習を通し、競技力向上のための考え方などを説明し「自分の長所をどんどん伸ばして欲しい」と子どもたちにエールを送りました。



同日、記録会も行われ、高平さんは100m・200mに出場。世界レベルの走りに会場からは大きな歓声が送られました

小林中学校の4つの部活動 九州大会出場を決める

7月31日、小林中の陸上駅伝部3人、新体操部1人、柔道部1人、硬式テニス部10人が九州大会出場を市長に報告しました。7月に行われた県大会で各種目上位入賞し出場権を獲得。硬式テニス部の磯脇日向主将は「県代表として正々堂々と戦います」と話していました。



九州大会での活躍を誓う選手ら。新体操部の熊迫洋人さんは「自分の演技をします」と抱負を語っていました



1

SUPや農家民泊で交流

能登町の中学生22人が来市

7月27日から29日にかけて、姉妹都市の石川県能登町の中学生22人が市を訪れました。小野湖でのSUP体験や竹とんぼづくり、農家民泊などを実施。市内からも中学生13人が参加し友情を深めました。別れの会で、小林中3年の始良陽大さんは「きっとまた会えることを信じています。それまでお互いの生活を、精いっぱいがんばりましょう」と話していました。



2

Photo1 能登町との交流事業は、野尻地区が合併する前の平成7年から続いています。昨年度は市内中学生が能登町を訪問しました 2 小野湖ではSUPのほかにかヤックも体験 3 地元食材などを使ったバーベキューで交流を深めました

3



須木地区では、通学路の街灯に覆いかぶさっている木の枝などを伐採。高所作業車などで手際よく作業を進めていました

建設業協会青年部が通学路 などの危険箇所を点検

7月27日、小林地区建設業協会青年部と市は、市内の通学路危険箇所などの合同点検を行いました。安心安全で災害に強いまちにすることを目的に、同会の会員と市職員合わせて52人が参加。市内6班に分かれて、市道や通学路にせり出した樹木などの伐採や清掃を行いました。

市内に幼年消防クラブ誕生 西小林保育園で結成式

7月24日、幼年消防クラブ結成式が西小林保育園で行われました。地域防災などに対する意識を高めることが目的で、年長組17人で同クラブを結成。式では、木佐貫幸男消防長に対して年長組全員で「ぼくたち、わたしたちは、火遊びはしません」と大きな声で誓いました。



式終了後は、園児らは木佐貫消防長から渡された真新しい法被を着て、消防職員と一緒に放水体験などを行いました(=表紙写真)

小林の名水に親しむ催しを実施

8月4日、こばやし名水夏まつり2018が開催されました。今年、障害物を挟んで水鉄砲を打ち合う「水かけ合戦」、水のスクリーンに映像を映す「放水ショー」などの新企画を実施。約1万7000人が来場し、暑い夏にひと時の涼を楽しみました。



薬の調剤や看護・介護を模擬体験

8月5日、第3回医療体験イベント(小林えびの西諸薬剤師会主催)が開催されました。医療を身近に感じてもらうことが目的で、市内の小学生24人が参加。お菓子を薬に見立てた調剤や看護・介護などの模擬体験を行いました。



市民協働で市内各地の道路を清掃

8月は「道路愛護月間」。毎年、市では第1日曜を「道路愛護デー」とし、清掃などの奉仕活動が行われています。8月5日、市内各地区で早朝から道路清掃を実施。約1万人が参加し、草刈りやゴミ拾いを行いました。



九州各県の中高校生ランナーが合宿

8月8日から11日にかけて、九州ジュニア長距離合宿が行われました。九州管内の中高生の競技力向上が目的で、22校237人が参加。選手らは、ひなもり台クロスカントリーコースや総合運動公園などで練習を行いました。



自分の将来像について考える「近未来ハイスクール」開催

8月18日、小林近未来ハイスクールが開催されました。中学生から大学生、社会人まで108人が参加し、「働くこと」や「将来像」について意見を交換。東方中2年の園田日菜子さんは「自分が思いつかない夢を持つ人の話を聞いて、やりたいことをもっと見つけたいと思った」と話していました。



中学生、高校生、大学生、社会人それぞれの年代を交えた19のグループに分かれワークショップを行いました

(株)APPと共同開発のスイーツご当地グルメコンテスト2位

8月18日、19日、ご当地グルメコンテストinまつり宮崎が宮崎市で開催されました。県内26市町村の自慢のご当地グルメが出品され、市の「甘めも〜甘メロン」が準優勝を獲得。同商品は、市の若手職員と(株)APP(野元宏二代表取締役)が共同で商品を開発しました。



同事業は、3年目の市職員が研修の一環で実施。4月から、メニューの考案、PR活動や当日の準備などを行ってきました



1

スポーツを通して国際交流 ドイツの若者8人が来市

7月30日から8月3日にかけて、日独スポーツ少年団同時交流受入事業でドイツのバイエルン州のスポーツ少年団員ら8人が市を訪れました。そば打ち体験や弓道などの日本文化を通して市民らと交流。ホストファミリーの黒木喜代美さんは、「初めての体験で不安でしたが、とても楽しく過ごせました。見送りの際は寂しくて思わず泣いてしまいました」と話していました。



2

Photo1 ホストファミリーとのお別れパーティー 2 弓道の成り立ちなどの説明を受け実際に弓を引く参加者たち。小林高校の弓道部員が丁寧に教えていました 3 見送りでは涙を流しながら最後の時間を過ごしました

3



6次産業化で地域活性化 地域おこし協力隊新たに着任

地域活性化と定住・定着を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、8月1日、池上翔さんを隊員に委嘱しました。「WEB関係で働いてきた経験を生かし、小林市にあるさまざまなコンテンツをブランディングしてPRしていきたい」と池上さん。6次産業化を通じた地域活性化を目指します。



宮原市長と池上さん。コワーキングスペースTENOSSEに勤務しTENOSSEの運営や空き家バンク制度などを担当します



約20分まで上がる熱気球。体験した橋谷咲斗さん(西小林小2年)は「高くて少し怖かったけど、とても楽しかった」と笑顔でした

地域の絆深める催しを企画 橋谷地区公民館で熱気球体験

8月5日、熱気球体験会(橋谷地区公民館主催)が開催されました。宮崎大学熱気球部の協力のもと実施され、地域住民ら約100人が来場。橋谷純郎公民館長は「気球に乗って上空から地元を見てもらう貴重な体験とおして、地区の絆が深まるきっかけになればうれしい」と話していました。



日本女子プロゴルフ界 期待の大型新人 わきもと はな 脇元 華 プロ

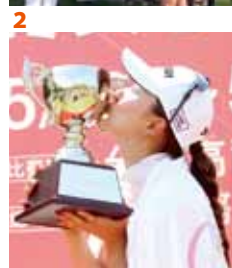


Photo1 成人式で祖母さちえさんと。「小さい頃から育ててもらい、心から感謝しています。たくさん優勝する姿を見せたいので長生きしてもらいたいです」。2 3回目のプロテストで父とツーショット。「こんなすばらしい競技に出会えて、父に感謝です」。3 台湾ツアー第3戦目で初優勝。(写真提供/脇元信幸さん)

今年7月に行われたプロテストで、21人の女子プロゴルファーが誕生した。その中で、身長174cmの恵まれた体格からのショットを武器に、注目を集めている選手がいる。UMKテレビ宮崎所属の脇元華プロ、20歳(細野出身)。今年5月の台湾ツアー第3戦目で優勝するなど華々しい活躍を見せている。

脇元プロがゴルフを始めたのは8歳のとき。父信幸さんの趣味であるゴルフ練習に付いて行ったのがきっかけだ。「小さい頃は遊び感覚でやっていました」と脇元プロ。転機は、中学3年のとき。世界トッププロの海外試合を現地で観戦した。本格的にプロを目指すというスイッチが入った瞬間だ。「選手全員がキラキラ輝いていました。とにかくオーラがすごかった。自分もこんなプロになりたいと強く思いました」。

会場を沸かせ、子どもたちに夢を与えられるような華麗なプレーヤーを目指します。

強く思いました。細野中学校卒業後、ゴルフ部のある宮崎日大高校に進学。キャプテンとして全国大会などで好成績を収めた。卒業と同時にプロテストに挑戦。周囲から合格間違いなしといわれたが、1回目は食中毒、2回目は最終ホールでミスし、わずかに2打足りず不合格だった。「本当に悔しかったです。正直、ゴルフをやめたいと思うこともありましたが、でも、たくさん涙と夢があったから努力できたのかもしれません」。2年間、ヨーロッパなど海外の試合にも挑戦し、ショットの飛距離や精度に磨きをかけた。「この2年で技術的にはもちろん、精神的にも強くなれました」。今、ようやくスタートラインに立った脇元プロ。「あのとき私が憧れたトッププロ選手のように、会場を沸かせ、子どもたちに夢を与えられるプレーヤーを目指します」。

野尻野球スポ少が九州大会出場を報告

8月10日、野尻野球スポーツ少年団が九州大会出場を市長に報告しました。主将の前田拓海さんは、「自分たちの力だけではなく、みんなの協力があって大会に出場できる。周りに感謝して、最後の一球まで頑張ります」と意気込みを話しました。



西諸一体で医療・介護の連携推進へ

8月10日、第6回西諸地域在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。在宅医療と介護の連携を円滑に行うために手助けをする専門職の紹介や活動経過報告などを実施。医療と介護の連携推進を西諸一体で取り組むことを確認しました。



山々に響く打上花火に大きな歓声

8月11日、第41回小林市すき納涼花火大会が須木中学校で開催されました。市内外から約1万人が来場。イベントの最後を飾る約7000発の打ち上げ花火が頭上高く打ちあがると、会場からは歓声と大きな拍手が起こっていました。



被災時は日ごろの地域活動が重要

8月11日、防災講演会を開催しました。益城だいすきプロジェクトきまに代表の吉村静代さんは、熊本地震で避難所生活を体験。「行政やボランティアなどに頼るだけでなく、地域住民ができる範囲で活動することが大切です」と話していました。



取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、東方区域

東方校区まちづくり協議会が発足

8月5日(日曜)、小林市で7番目のきずな協働体「東方校区まちづくり協議会」を設立しました。

活動テーマは、「参加しやすくなる・参加しやすい地域活動づくり」。地域に生きるみんなで、地域の課題を見つけ、いつまでも手を取り合い、助け合う地域を目指します。

そして、災害に強い、伝統と文化を守る、みんなが健康で長生きできる活力ある地域

の実現を目標に取り組んでいきます。

東方には陰陽石や三之宮峡など、全国に誇れるお宝がたくさんあります。これから、さまざまな事業を展開しますので、注目ください。

9月23日には、東方の一大イベントである陰陽石まつりが開催されます。東方の人や伝統芸能を体感できる素晴らしい行事です。皆さん、ぜひお越しください。



協議会の設立総会の様子

東方校区まちづくり協議会
会長 森岡興津男さん



9月23日(日曜)は
陰陽石まつり。
お誘い合わせを
お願いします。